



季節や天候でさまざまな表情をみせる衣浦の海

60年以上
活躍しています。
まちの
シンボルマーク



“撮っておき” の たかはま 【第60回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

町章決定!!
先に募集した本町のシンボル「マーク」は、全国津々浦々から多数の投稿があり、而も探るに長時間を費し、応募者諸氏並びに町民各位に幾多の御迷惑をお掛け致して居りました。厳選の結果左記の通り入選者を決定しました。

入選、横濱市神奈川区
記 小島敏夫氏
三 三浦限鈴鹿市岡
作 福井県大野郡村
佳 岩井正一氏

が三州瓦の名声とともに本町の名を全国的に轟かせる日の一日も早からんことを切望いたします。」と同紙では結んでいる。

輪郭として円満な和を、波頭で「浜」を表わし、波涛のような力強い向上を表現している。同年6月1日の広報で「町章」として発表された。「本章が三州瓦の名声とともに本町の名を全国的に轟かせる日の一日も早からんことを切望いたします。」と同紙では結んでいる。

▲昭和29年6月「高浜町広報」第4号で入選・佳作が発表された。



高浜市の市章

昭和29年4月の『高浜町広報』第2号のなかで「本町の象徴『マーク』の募集!!」として、まちのイメージを表すシンボルマークの募集が行われた。すると「遠く北は北海道から南は九州のはて鹿児島に至るまでの各地より250余点の作品が集まり」（同年5月第3号広報より）選考の結果、神奈川県横浜市の方の案が採用された。「高」の文字の図案化で、足を輪郭として円満な和を、波頭で「浜」を表わし、波涛のような力強い向上を表現している。同年6月1日の広報で「町章」として発表された。「本章が三州瓦の名声とともに本町の名を全国的に轟かせる日の一日も早からんことを切望いたします。」と同紙では結んでいる。

高浜市が瓦の産地となったのも、その昔、船に積んで出荷するのに適していたからといい、海は、たかはまの歴史と発展に大きくかかわってきた。特に、このマークの誕生直後は、昭和31年4月、対岸の半田市とを結ぶ衣浦大橋が開通。昭和32年の5月に衣浦港は、重要港湾に指定されている。

時を経て、海岸線は姿を変えてきたが、市制施行(昭和45年)以降もこのマークは使用され、今も「海辺のまち」高浜市を全国にアピールしている。

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください! (23ページ)

広報たかはま
編集・発行／高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。